



ササマユウコ

Yuko Sasama

音楽家
芸術教育デザイン室CONNECT/コネクト代表

ごあいさつ

「音楽、サウンドスケープ、社会福祉」という道筋を提示したR.M.シェーファーは20世紀後半のカナダを代表する現代音楽家です。

特に「サウンドスケープ」という考え方は、自身を取り巻く「環境の音風景」、つまり「場の関係性」を音から知覚する新しい世界観として、音楽領域に限らず世界的に広く認知されています。

シェーファーはもともと画家志望でしたが、生まれながらの重い視覚障害のために10代半ばで美術の夢を諦め、音楽へと向かいました。そして聴覚（サウンド）と視覚（スケープ）の「境界」にある新しい世界の在り方を発見し、唯一無二の現代音楽家となりました。

ササマユウコは2011年の東日本大震災を機に、自身と音楽の関わり直しを目的にサウンドスケープの実践研究を活動の軸に移しました。音楽と美術、身体と思考、芸術と科学、世界を分断するのではな響き合わせ、森羅万象に全身をひらくようなオンガクの内にある「新しい知の在り方」を、ワークショップ、哲学対話、レクチャー、執筆等を通してご紹介しています。そしてこの歩みはまさにシェーファーが提示した「音楽、サウンドスケープ、社会福祉」の道筋だと実感しています。

キーワード

サウンドスケープ、サウンド・エデュケーション、芸術教育、知覚、哲学対話、アートとケア、社会福祉、場づくり、即興、境界、社会共生

芸術教育デザイン室
CONNECT/コネクト

メール：
tegami.connect@gmail.com
ウェブサイト：
www.yukosasama-web.jimdosite.com

PROFILE

1964年東京生まれ

- ・3歳、父の転勤で暮らした函館でピアノに出会う。
- ・10歳、クラシックの楽典を学ぶ。12歳でピアノコンクール1位
- 都立国立高校卒
- 上智大学文学部教育学科卒（視聴覚教育、教育哲学）1987年卒
- 弘前大学大学院今田匡彦研究室社会人研究（2011～2013）

音楽を問い、日々を生きる

1980年代後半～2000年代

80ね代の大学時代に欧州8カ国の文化芸術をリサーチし、大学卒業後はセゾン文化事業部文化メディア専門職（シネセゾン出向）に就職。その後ヤマハ『ピアノの本』編集部ほか音楽ライター、世田谷パブリックシアター劇場スタッフ等。

2000年に日本発のひとりレーベル神楽坂BEN-TEN Recordsにて、Yuko Sasama名義CD6作品発表。第1作「青い花」（音楽・ピアノササマユウコ、尺八・坂田梁山）が邦楽ジャーナル誌上2001年度売上1位となる。2007年にN.Y.Orchard社より個人契約のオファーがあり、2023年現在も72カ国で配信中。

2011年～現在

東日本大震災を機に、音楽との関わり直しの必要性を痛感し、2013年までM.シェーファーと共著のある弘前大学今田匡彦研究室大学院社会人研究生となり、サウンドスケープ哲学の実践研究を始める。並行して町田市生涯学習部まちだ市民大学で「福祉学」「環境学」、ロバの音楽座ワークショップの企画運営等、3年間で400講座を担当。2014年に相模原市立市民・大学交流センター内に芸術教育デザイン室CONNECT/コネクトを設立。

所属学会

アートミーツケア学会、日本音楽即興学会
日本音楽教育学会（査読論文あり）

主催企画・コンテンツ

即興カフェ（音楽×言葉 哲学カフェ）
空耳図書館のおんがくしつ（音楽×本 読書会）
聾CODA聴 対話の時間（境界ワークショップ研究）

2020年,コロナ以降の仕事

エル・システマジャパン映画「LISTENリッスン」オンライン対談、東京芸術劇場社会共生セミナーレクチャー、かながわ文化芸術祭「福祉と舞台芸術」ワークショップ・ファシリテーター養成講師、建築ジャーナル寄稿、読書会ゲスト、学会執筆等

2023年までの助成事業

東京都アートにエールを、文化庁文化芸術活動の支援事業（個人音楽活動）、子どもゆめ基金読書活動、アートミーツケア学会公募プロジェクト、日本音楽即興学会など。